

正統なソフトウェア品質エンジニアである ためにSQiP研究会に入るべき7つの理由

SQiP研究会運営小委員会副委員長

(早稲田大学／国立情報学研究所／システム情報)

鷺崎 弘宜



正統なエンジニアリング

知識・適格性の妥当
性をコミュニティで
判定できる環境

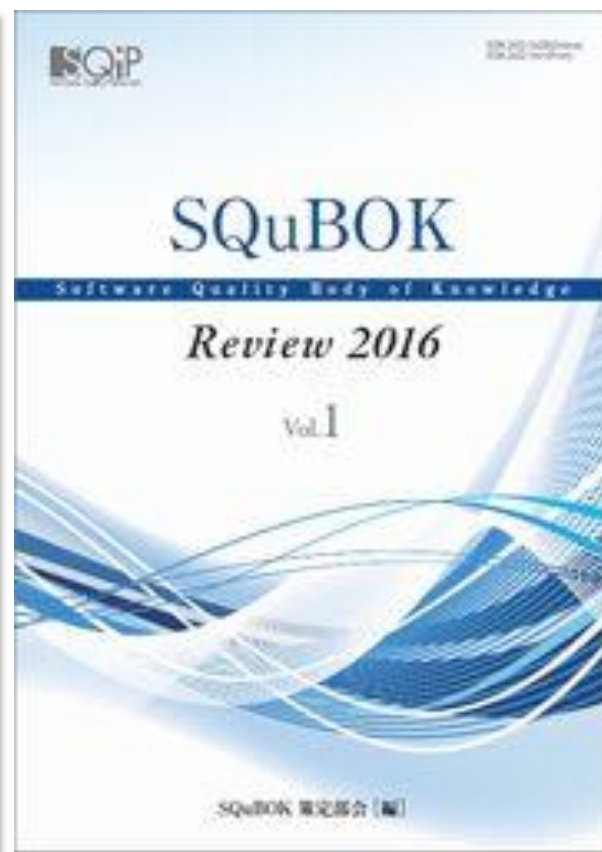
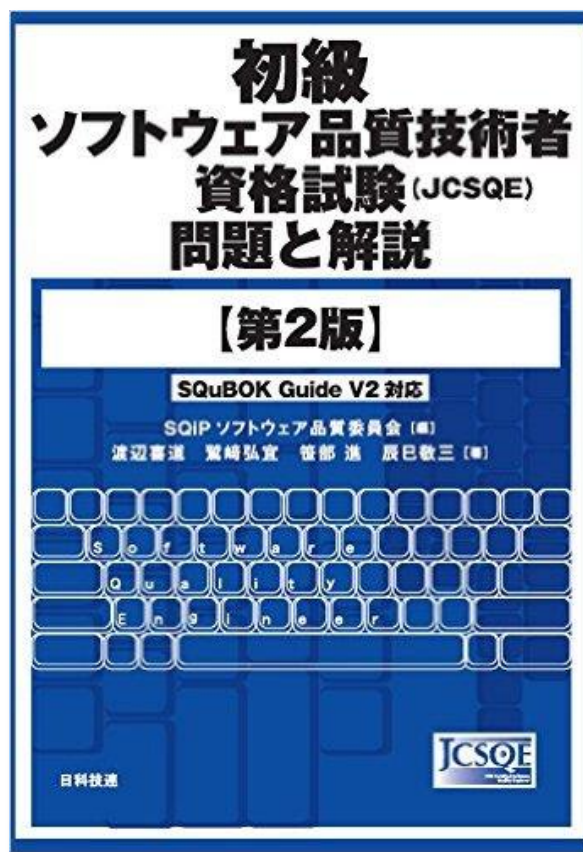
コミュニティで妥当と確
認される知識が科学的
基盤に基づく

職業人が果たす判断,
行為, 助言が, 社会で
実質的な価値を形成

理由1. プロフェッショナル コミュニティからの指導陣と特別講義

- 経験と専門知識
- 日本の品質管理、世界の最先端
- 相談のチャンス



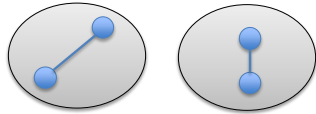


理由2. 実証済みの品質知識体系に基づく学習・研究

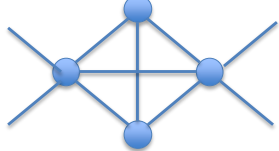
知識

プロフェッショナリズム

体系上のパターンや手法



知識の体系
SQuBOKなど



知識の島々



CMMI UML

アジャイル

直交表 メトリクス



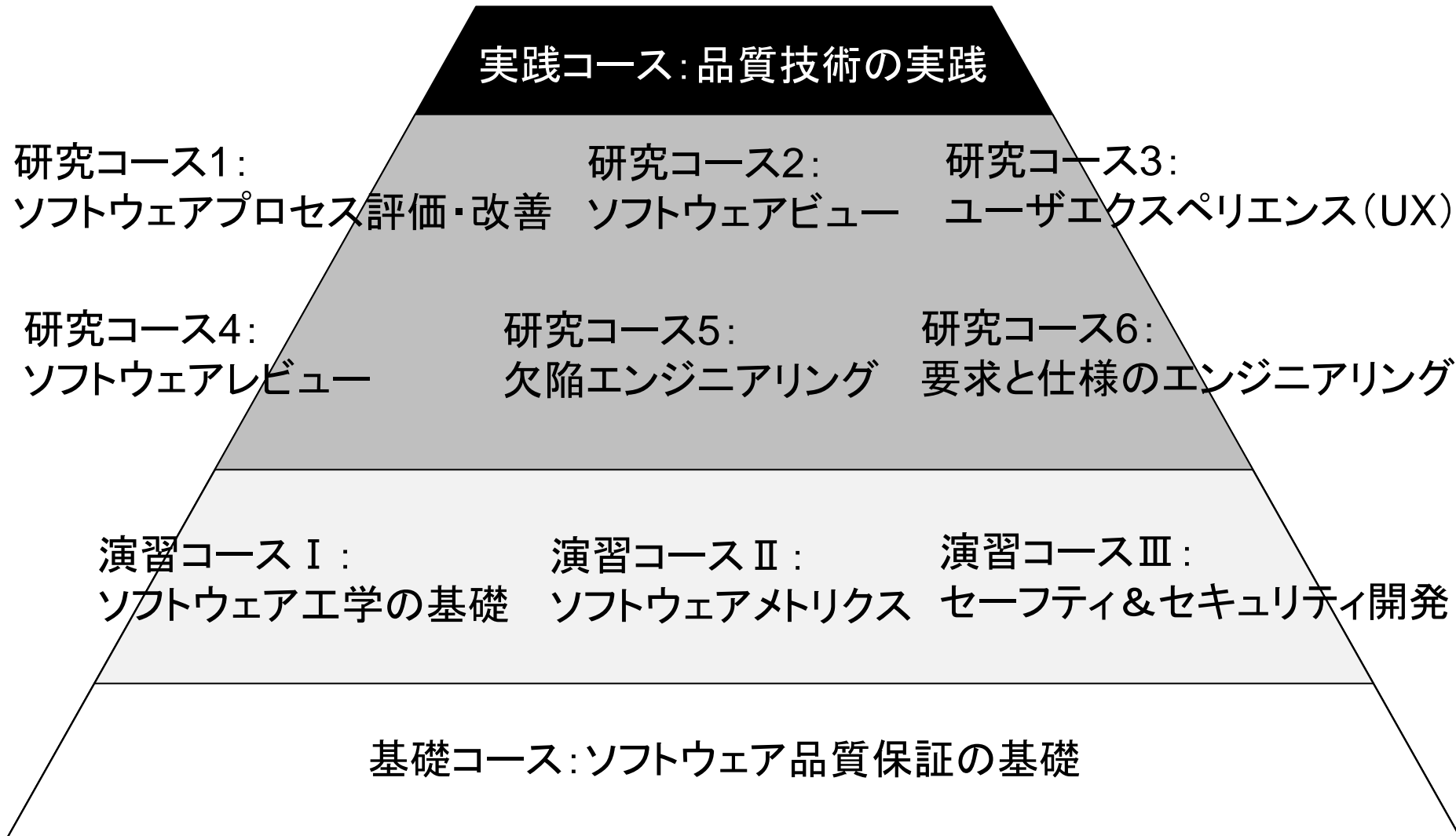
より良く、速く、幸せ

ベストプラクティスに裏打ちされた能力

遅く、リスクが高い

経験、ガイド

理由3. 取り組みと扱う領域の広さ



理由4. 1年間の取り組みと実践サポート

- 仮説、調査・実験・データ、検証
- 実践コース、「アフター」
- 卒業後の支援、複数年を経て指導側へ

5月 例会(特別講義、研究・演習・実践)

6月 例会

7月 合宿

9月 ソフトウェア品質シンポジウムSQiP

10月 例会

11月 例会

12月 例会

1月 例会

2月 成果発表会・表彰



理由5. 価値形成と知識体系構成 に向けたまとめと論文

- 論文執筆、発表
- 研究デザイン・論文講座
- SQiPシンポジウム、SQiPライブラリ

第1分科会 ソフトウェアプロセス評価・改善

プロセスは定着していますか Part3
～不具合事象に基づく標準プロセスへのフィードバック手法の提案～

Is the process firmly established? Part3
～Proposal of process improvement method based on product quality～

主査 副主査 研究員	三浦 邦彦 阪本 太志 相澤 武 有賀 一輝 小淵 一幸 坂部 誠之 田淵 一成 野口 和馬 宮川 研二 宮迫 久浩	矢崎 純業(株) 東芝デジタルメディアエンジニアリング(株) (株)インテック (株)イクスアネックス セイコーエプソン(株) (株)シーイーシー ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ(株) 伊藤忠テクノソリューションズ(株) ダイキン情報システム(株) (株)リンクレオ
------------------	---	--

※リーダー ※サブリーダー

研究概要

プロセス改善の必要性を論じる上で、その効果を明確に示すことが非常に重要となる。また、プロセスに基づいたプロジェクト運営に携わるプロジェクトメンバーにとって、個々のプロセスの必要性を十分に理解しているかどうか、プロセス実施の効果に大きな影響を与える。つまり、必要性を理解できないプロセスからは十分な効果を得られない。

一方で、プロセスの定義や改善に携わる EPG(Engineering Process Group)の立場で考えると、プロジェクト側で抱えるプロダクトそのものの品質に対して、『プロセス改善にどのような効果を期待するのか』を明確に理解した上で改善を実施する必要がある。改善の本来的な目的は、プロセスの品質を向上させることだけでなく、プロダクト品質を保つための基盤を築くことである。

本研究では、まずプロセス品質とプロダクト品質の相関に着目し、プロジェクト側で発生する不具合事象に対して、プロセス視点での真因を分析することで、プロセスの改善箇所を導き出す手法を定義した。次に、EPGとプロジェクトの現場との協働によって適切なフィードバックを確立できる仕組みを提案した。

SQiP
Software Quality Profession
日科技連

SQiPソフトウェア品質ライブラリ (略称: SQiPライブラリ)

SQuBOK分類検索 フリーワード検索

10 件の資料が見つかりました。

+ 1 ソフトウェア品質の基本概念 (17)

+ 1.1 品質の概念 (10)

- 1.1.1 品質の定義(品質の考え方の実遷) (2)
- 1.1.2 ソフトウェア品質モデル (3)
- 1.1.3 メンテナビリティ(保守性) (0)
- 1.1.4 リリアビリティ(信頼性) (0)
- 1.1.5 セキュリティ (1)
- 1.1.6 ユーザビリティ (5)
- 1.1.7 デベンダビリティ (0)
- 1.1.8 セーフティ (0)

+ 1.2 品質のマネジメントの概念 (6)

+ 1.3 ソフトウェアの品質マネジメントの特徴 (4)

+ 2 組織レベルのソフトウェア品質マネジメント (34)

現場で使える品質評価手法の研究 詳細を見る

ダウンロード数: 44回

SQuBOK分類:
1.1.1 品質の定義(品質の考え方の実遷)、1.1.2.1 ソフトウェア製品の品質に関する規格 (ISO/IEC 9126シリーズ)、2.2.1.1.4 V字モデル、3.1.2 プロダクトマトリクス

年度: 2005年 **分科会:** 第5分科会「テスト」

執筆者: 荻原 俊彦(アンリウエンジニアリング)、相原 尚子(サイボウズ)、白山 新一(富士通北陸システムズ)、町田 欣史(NTTデータ)、宇野 也寸志(ダイキン工業)、伊藤 史伸(アールゴ21)

紹介文:
ISO 9126などの品質特性を、実際の現場でどのように使えばいいの一方策が提案されています。通常は外部品質特性のみ着目されがちですが、内部品質特性も使用されており、開発する立場が考えねばならないことも組み込まれています。使用する際は、プロジェクトごとに品質特性の捉え方は異なるので、チェック項目と特性のリンクを再考し、チェックリストの補足も、プロジェクトにあった形にすると、より使いやすいもの



理由6. 仲間と多様な視点

- 多様な視点と気づき
- 強み、弱み
- 組織を超えた仲間



理由4. 1年間の取り組みと実践サポート

理由5. 提言や知識体系構成に向けたまとめと論文

実践

問題
発見

解決
手段

理由6. 仲間と多様な視点

理由2. 実証済み品質知識体系に基づく学習・研究

理由3. 扱う領域と取り組みの広さ

理由1. プロフェッショナルコミュニティからの指導陣と特別講義



理由4. 1年間の取り組みと実践サポート

理由5. 提言や知識体系構成に向けたまとめと論文

**7つ目の理由は、あなたが見つけてください！
あなたの問題意識に各コースは合いますか？**

理由6. 仲間と多様な視点

問題
発見

解決
手段

理由2. 実証済み品質知識体系に基づく学習・研究

理由3. 扱う領域と取り組みの広さ

理由1. プロフェッショナルコミュニティからの指導陣と特別講義

ご体験ください！